

昭和55年度 同窓会決算書 昭和56年度 同窓会予算書

収入の部

科目	55年度決算額	56年度予算額
入会金	954,000円	945,000円
繰入金	250,000	250,000
繰越金	20,330	261,695
雑収入	46,925	4,305
合計	1,271,255	1,461,000

支出の部

科目	55年度決算額	56年度予算額
事務費	0円	30,000円
会議費	60,700	120,000
総会費	141,010	150,000
旅費	58,810	100,000
人件費	168,000	168,000
要費	129,040	180,000
役務費	6,000	20,000
慶弔費	38,500	90,000
寄付金	250,000	250,000
記念品費	157,500	165,000
雑費	0	38,000
予備費	0	150,000
合計	1,009,560	1,461,000

55年度総会報告

五十五年度同窓会総会は七月二十日、四十四回生を当番幹事にして開かれた。

午後一時から奥瀬艇協会長

・青木健一 下諏訪町長らを来賓に招いて建設なった艇庫の完工式を挙げる、午後二時半から諏訪市文化センターで総会の議事に入った。

林憲一岡谷支部長を議長

に選任、大森会長、矢島学
校長のあいさつがあつて、

山崎学校事務長の事業・決

算報告を説明どおり承認、
新年度事業・予算案を原案
どおり可決、役員改選を行

った。各支部長が選考委員

となつて会長に山田六一、
副会長に小口禎三(再)石
井睦蔵、会計監事に藤森楨

次・小松定弘(再)の各氏
を推薦、これを万場一致で
承認して総会の幕を閉じた。

本部署役員

五十六年度同窓会役員が
次のとおり決まりました。

【顧問】大森栄

【名誉会長】矢島五郎(学

校長)

【会長】山田六一

【副会長】小口禎三、石井

睦蔵

【監事】藤森楨次、小松定

弘
【常任幹事】井上彦次(総

(以上東京支部) 工藤芳久、
矢島子郎、山崎忠(以上学
校)

【八十年史編集委員会】委
員長 石井睦蔵(委員) 岩
波泰明、小口祐一、矢島寿
雄、平島佐一、高木昭彦、
牛山皓司、古原正之

【同窓会報編集委員会】委
員長 田中吉泰(副委員長)
石井末夫(委員) 笠原修、
横内正、武井孝博、工藤一
明、仲本権一

【学年幹事】花岡忠雄(28
回) 小口晴雄(29回) 平塚
泉(30回) 宮坂水穂(31回)
保坂泰正(32回) 宮坂亨(33

務) 勝山甲一(庶務) 田中
吉泰(会報) 藤森秀雄、藤
森利男、小口達雄(以上諏
訪支部) 高木常雄、小口成
人、宮坂久臣(以上岡谷支
部) 平山正健、高木満、大
和武美(以上下諏訪支部)

伊藤治夫、丸茂恵司、牛山
保登(以上茅野支部) 松沢
達、清水勝弘(以上原支部)
五味一、坂本積(以上富士
見支部) 赤羽貞雄(上伊那
支部) 尾沢賢一、保延醇一

北沢武(52回) 河西勇(55
回) 関藤彦(42回) 土橋仁
(43回) 宮坂武夫(44回)
小菅重男、土橋道治(45回)
田中吉泰、大和武美(46回)
高見勝補(47回) 溝口勉(48
回) 藤森英一(49回) 有賀
裕(50回) 山崎壮一(51回)

kominar

世界へ雄飛

歴史と伝統にはくくまれた

美しいレンズが

kominarのブランドに磨きをかけて
さらに充実して海外へ輸出されています

レンズ・カメラの総合メーカー

日東光学株式会社

諏訪・東京



支部役員

【東京支部】(支部長) 小口禎三(幹事) 尾沢賢一、村上利雄、保延醇一

【東海支部】(支部長) 吉森秀雄(幹事) 小口達雄、江佐太郎

【京阪神支部】(支部長) 憲市、金子功、桑沢和夫

【茅野支部】(支部長) 伊藤治夫(常任幹事) 丸茂恵司、牛山保登(幹事) 帯川春雄、竹内睦二、福島仁志、矢崎順一、篠原節、寺島六三、今井勝、藤田福蔵

【原村支部】(支部長) 松沢達(常任幹事) 清水勝弘、雄、伊藤隆一、矢ヶ崎克彦

【富士見支部】(支部長) 高木常雄(常任幹事) 小口成人、宮坂久臣(地区幹事)

【岡谷支部】(支部長) 高木常雄(常任幹事) 小口成人、宮坂久臣(地区幹事)

【諏訪支部】(支部長) 藤小口進一郎、武井武人

【長野支部】(支部長) 五味一(副支部長) 坂本積人、宮坂久臣(地区幹事)

【諏訪支部】(支部長) 藤小口進一郎、武井武人

【長野支部】(支部長) 五味一(副支部長) 坂本積人、宮坂久臣(地区幹事)

【下諏訪支部】(支部長) 吉村俊夫

【松本支部】(支部長) 吉村俊夫

【上伊那支部】(辰野町が中心) (支部長) 赤羽貞雄

【下諏訪支部】(支部長) 吉村俊夫

【松本支部】(支部長) 吉村俊夫

【井出五郎】(56回) 鈴木(63回) 山崎晃(64回) 北実(71回) 小口和文(72回)

武彦(57回) 笠原忠夫(58回) 沢武義(65回) 笠原克彦(66回) 森千章(73回) 矢島伸一(74回) 中島伸一(59回) 斉間(回) 朝比奈一正(67回) 伊回(牛山秀樹(75回) 矢崎孝一(60回) 土橋勉(61回) 藤八郎(68回) 河西勝彦(69回) 正典(76回)

五味秀夫(62回) 小池博之(回) 藤森由一(70回) 小沢

勅使川原明英

住所、勤務先など変更の方は事務局までご連絡を

事務局では常に会員の移動を記録しております。移動のあった方は、回別(または入学年度)、氏名、自宅、勤務先、各電話番号などをハカキにてお知らせ下さい。



肥料・飼料 醸造原料
農資・農薬 ストープ



茶屋商事株式会社

代表取締役社長 小口達雄 (42回生)

本社 諏訪市大字中洲字祖根田4808
TEL 諏訪 2-6500(代)

酔う酒から
味わう酒へ

清酒麗人は副原料としてのブドウ糖水飴等の糖類をシャットアウトしました。米からの純粋な甘みをお楽しみください。

長野県諏訪市諏訪二丁目9番21号
麗人酒造株式会社
代表取締役 小松修治 (64回生)
電話 (02665) 2-3121(代)

今夜から!

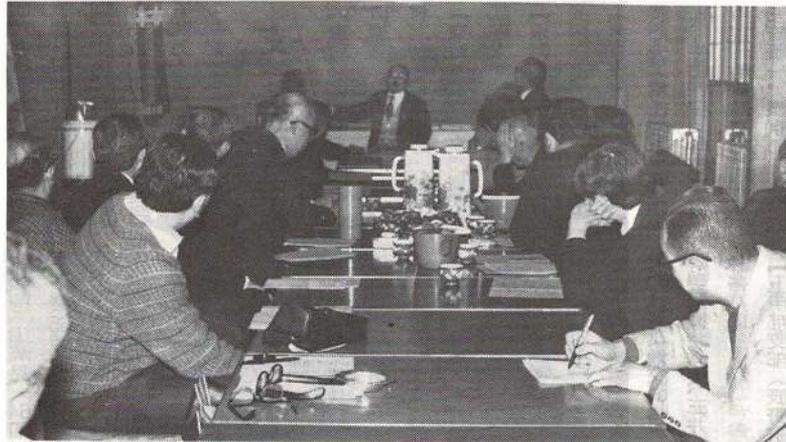


BREWED BY REIJINSHUZO CO., LTD.

支部だより

諏訪支部

午後六時から諏訪市小和田南の弁天荘で、来賓に矢島五郎学校長、武井武人同窓会副会長、石井睦蔵同窓会副会長らを招き、会員約五十名が



盛会だった諏訪支部総会

出席して開きました。山崎忠本会常任幹事(学)校事務長を司会に会を進め、藤森慎次支部長のあいさつ、矢島学校長、石井同窓会副会長の来賓祝辞に続いて、石井氏から「江戸時代の貨幣」と題する講演を聴きました。貨幣研究家として知られるだけあって、石井氏の講演は貨幣の分類価値など目新しい知識が多く、「さすがは専門家だな」といった声があちらこちらからもれました。

議事は金子功中洲地区長(副支部長)を議長に選任して進め、井上諏訪地区長(本会総務)が経過の報告を行い、役員改選の結果、支部長に藤森秀雄(33期)副支部長に小口達雄(上諏訪地区長42期)浜新太郎(四賀地区長30期)金子功(中洲地区長34期)桑野正文(湖南地区長31期)小泉憲市(豊田地区長39期)の諸氏を選任しました。引き続き藤森新支部長から多年支部長を務め功績が

大きかった藤森慎次前支部長に感謝の意を込めて記念品が贈呈されました。議事が終わって懇親会となったが、大先輩の21回生寺島和泉、河西保三氏らと64回生の栗田勝氏らとの間にはだいぶ隔たりがあるようでした。そこに伝統ある同窓会の強味と弱点が混在しているのかもしれない。支部運営の難しさを痛感した次第です。

(支部長・藤森秀雄)

下諏訪支部

去る四月十七日午後七時より、町内かめやホテル広間において、約四十名参加のもとに総会を開催。本日より山田六一同窓会長、学校側より学校長所用のため山崎忠事務長の御出席をいただいた。武井秀夫幹事の司会にて、支部長が開会の御挨拶を申し上げ、事業報告の後、役員改選に関し、

引き続き藤森新支部長から多年支部長を務め功績が

になったため、来年の改選まで現体制のままで行くと、石井睦蔵副支部長が本支部副会長就任のため、後任として大和武美氏を出席会員の賛成のもとに決定した。三井章義幹事の会計報告の後、来賓祝辞として山田同窓会長より就任の御挨拶がたがた八十周年記念事業の経過、結末、今後の同窓会の運営方針、抱負を含めての力強いお言葉があった。さらに、山崎事務長より母校の現況、生徒進学の状況、校舍全面改築の見通し等につき詳細な御説明があった。

閉会の辞を高木満副支部長が述べ、祝宴に入った。八十五歳、かくしゃくたる増沢俊介大先輩の乾杯の音頭にて、開宴。和気溢るるなか、歓談尽きず、談論風発。時の経つを忘れ、意気昂揚のうちに校歌斉唱。土橋兵蔵先輩の万歳の音頭にて会を閉じた。

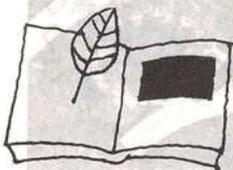
会後の印象として残ったことは、参会者が等しく、さらに多数の出席を望む声の強いことであった。参会者は高齡化が目立ち、三十代、清陵高校教頭岡氏も出席され盛会でした。席上、24回区連絡委員をさらに活用させていただき、支部会員の意識統一を計ることが緊急な課題ではないかと考える。今後この点に一層の努力を注ぎたい。昨年来中村貞一氏、林憲吉氏(16回)、小口利市氏、大野正夫氏(30回)、若松盈孝氏(61回)が物故された。小口利市氏は教育功労により従五位勲五等に叙せられ及光旭日章が贈られた。また慶事として本年五月の叙勲に中村文武氏(26回)が教育功労者として勲五等及光旭日章を受章された。

(支部長・平山正健)

松本支部

恒例の支部総会を、七月一日午後六時より、松本市大手二丁目信州会館において開催しました。出席者は

代表幹事・吉江久明、幹事・土田真、中村俊夫





旧交を温めあつた岡谷支部総会

長に高木常雄(33回)、副支部長に宮坂久臣氏(49回)留任、新副支部長に小口成人氏(44回)が選出されました。

高木常雄の「岡谷支部長に選出されたのは、前支部長のもとに足手まといのよくな副支部長を長く務めさせて戴いていた結果だと思

います。もとより、力の乏しい者ですが、新進気鋭な副支部長を筆頭に、優秀なる役員の方々と共に、伝統ある岡谷支部の会員相互

の和を計り、発展に寄与する覚悟であります故、会員の皆様の御支援、御鞭撻を願ひします」と、挨拶があり、次いで山田同窓会長

の祝辞、武井教頭より清陵高校の近況報告、山崎事務長の八十年史をはじめ、同窓会の近況報告がありまし

た。先輩矢島一美(20回)さんの音頭で乾杯、親観に移りました。

先輩、後輩入り乱れて、若き日の追憶に思いをはせ、懐旧談に花を咲かせ、夜の

更げるも知らず、山崎事務長の発声で校歌の合唱のころは最高潮。同窓会ならではの雰囲気、武井教頭が岡谷支部の万歳を、林憲一支部長が母校の万歳を

(支部長・高木常雄)

で会を進めた。まず物故会員の冥福を祈って黙祷を捧げ、小口禎三支部長があいさつ、保延醇一支部幹事長が会務の報告を行い、山田同窓会長、山崎学校事務長、小平二葉高校同窓会東京支部長がそれぞれ祝辞を述べ、

最長老の第十八回生・小沢正元さんの乾杯の音頭で懇親会に入った。

東京支部

同窓会最大の規模を誇る東京支部の総会はさる十月二十四日午後六時から東京

の神宮外苑、日本青年会館で来賓として同窓会本部から山田六一会長、石井睦蔵副会長、山崎忠学校事務長、田中吉泰会報委員長、諏中生のあこがれの的だった諏訪二葉高校同窓会東京支部

から小平嘉子支部長以下支部役員五人が列席、支部会員約二百二十人が参集して開かれた。

幹事役の四十四回生代表堀川春彦さんが開会の辞を述べ、岩波文彦さんの司会

って総会の幕を閉じたが、出席者の数のうえでも、当番幹事の演出ぶりもなかなかの出来で、来賓たちもさすがは東京支部だけのこと、はあると感嘆しきりだった。(田中)



岡谷支部

本年度岡谷支部総会が三月二十八日(土)午後六時

より、松風亭において行われました。出席会員百十名、本校よりは山田同窓会長、武井教頭、山崎事務長が来賓として出席されました。

一、開会のことは 高木副支部長

一、林支部長挨拶

告のあと、役員改選。八年間支部長を務められた林憲一先輩が勇退され、新支

宮坂久臣副支部長が司会され、名簿以外の出席報告があり、

高木常雄の「岡谷支部長に選出されたのは、前支部長のもとに足手まといのよくな副支部長を長く務めさせて戴いていた結果だと思

います。もとより、力の乏しい者ですが、新進気鋭な副支部長を筆頭に、優秀なる役員の方々と共に、伝統ある岡谷支部の会員相互の和を計り、発展に寄与する覚悟であります故、会員の皆様の御支援、御鞭撻を願ひします」と、挨拶があり、次いで山田同窓会長

の祝辞、武井教頭より清陵高校の近況報告、山崎事務長の八十年史をはじめ、同窓会の近況報告がありまし

た。先輩矢島一美(20回)さんの音頭で乾杯、親観に移りました。

先輩、後輩入り乱れて、若き日の追憶に思いをはせ、懐旧談に花を咲かせ、夜の

元二葉生の参加も



清陵富士見会発足

私どもの郷里の旧富士見村が、諏訪大社の御柱祭で、本宮一之柱を曳いたことが契機となり、小林茂三郎氏(38回生)から、東京で同窓会を開こうとの呼びかけの桃の間で、第一回清陵富



同郷同窓の絆を強めた

士見会開催が実現しました。を祝って、最年長八十二歳の小川一郎氏(17回生)の力強い首頭で乾杯致しました。

引続き、生まれた家のごと、両親、兄弟などの消息、母校での想い出、卒業後の経歴や近況などの自己紹介。何年ぶりに再会の人、また名前を聞いていたのみで、初めて出会った人。それぞれ、自由に歓談し、懐旧の情にひたるとともに、お互いの健在を喜び合いました。

余興には三井為友氏(30回生)のみごとなテノール独唱や、郷里から参加された細川光貞氏(35回生)の御柱木遣歌のご披露がありました。

また小林茂三郎氏出版の随筆「この十七年」が全員に配られたり、終始なごやかな雰囲気の中で会は進行し、高年令の方々から若い人達まで、一体となって同郷・同窓の絆を強めました。

最後に、参加者全員による校歌斉唱、そして二番目

が共に出掛け合い発展させてゆく行動ができる、第二の親類づきあいのできる組織を作ってゆきたい。そのためにはぜひ奥様もご一緒に、との趣旨に、郷里から八名、同伴のご夫人九名を含め、参集者五十四名の盛会となりました。

会場には母校の雰囲気と、同窓会東京支部旗、および横幕、「雖千萬人吾往矣」の書を掲げ、梶の若葉を飾りつけました。また、記念品として諏中・清陵の二つの校章をデザインしたネクタイピンを用意しました。

伝統にもとづく荘重な鎮魂曲を奏で、物故された同窓生のため黙祷をし、幽明境を異にした人達を偲びて冥福を祈りました。そして発会の趣旨説明、会則承認、役員選出を行い、会の出発

の年長者小川三郎氏(22回生)による、この会の成功を喜ぶ閉会のお言葉ご締め、次会での再会と、お互いの健在を約して散会致しました。

富士見支部

支部の総会を十一月二十三日、駅前の山浦館で昨年に続いて開くことが出来ました。名簿も修正に修正を重ね、毎年総会の出来る体制がとれたと思われま

今年も修正に修正を重ね、毎年総会の出来る体制がとれたと思われま

今年も修正に修正を重ね、毎年総会の出来る体制がとれたと思われま

ご子弟の免許取得には

(東京方面の方は20日間で卒業できる合宿教習で)

長野県公安委員会 茅野自動車学校

茅野市宮川坂室5299番地 電話 02667-2-4111

- 代表取締役 桑 沢 和 夫 (47回生)
- 専務取締役 矢 崎 齊 男 (51回生)
- 渉外部長 上 條 雅 夫 (50回生)



東洋のスイス 諏訪湖畔で
精密加工技術に生きる……

ファクシミリ・精密計測器
省力機械・治工 検具

 株式会社 **ダイヤ精機製作所**

本社工場 岡谷市小井川7978
☎ 02662-7-7733
営業所 東京都杉並区上井草4-9-12
☎ 03-399-0685

代表取締役 小口成人 (第44回)
常務取締役 高波勝郎 (第44回)
取締役 小口楨三 (第36回)
監査役 植野忠道 (第41回)

季節料理

シャブシャブ料理

天ぷら **仙岳**
割烹

湖明館通り 電話⑧3515(代)

〔駐車場完備〕

病院 田中クリニック

院長 (外科・麻酔科) 田中 正利 (第52回生)
副院長 (内科・小児科) 田中マキ子

諏訪市元町18番11号 電話 諏訪(2)2343番



信州随一の豪華リゾート

交通・東京・名古屋より 3時間圏内
客室・180室 (別館含む)
収容・800名様 (ク)
宴会場・500名用・300名用
スポーツ・一年中泳げる温泉プール
娯楽・フラメンコ・ショー等
・クラブ・コーナー
・コーヒールラウンジ
大浴場・岩風呂・曲玉風呂
料理・信玄鍋・天地焼 ホロホロ鳥

政府登録国際観光旅館
蓼科グランドホテル 滝の湯

〒391-03 長野県茅野市蓼科温泉 ☎02667-2525(代)

姉妹店 蓼科グランドホテル別館 ☎26667-2700

レストラン サン霧ヶ峰 ☎02665-3-6300

新宿で一番目につくまい店
日本料理 **又三**

西新宿プラザ通り
ミヨヤ ヨレヤレ
(348)4080

予約センター ☎026667-3737 T E X3362-437 ●東京フロント(348)1515 名古屋フロント(57)8001 大阪フロント(252)5578

代表取締役 柳澤 英次 (45回)
予約課長 土橋武晴 (72回)

わが社の仲間

取締役営業部長 柳澤洋介 (73回)
柳澤英伸 (77回)

(有)坂本電化

諏訪郡富士見町落合8716
TEL 02666(2)3851

坂本 喜彦
(48回生)

矢島内科医院

院長 矢嶋 淳
(第46回)

茅野市 ちの駅前
TEL (02667) ②-2048



西独ゲッツェ

スキービンディング



株式会社 長野サンコー

代表取締役 宮坂 祐次 (第51回) 取締役工場長 塚原 和夫 (第48回)
諏訪市中洲工場団地 電話 (02665) 2-2432(代)

ハナマルキ

おみそづくりを通じて
日本のおかあさんに奉仕する

ハナマルキ味噌

ハナマルキ味噌株式会社

取締役社長 花岡 金郎 (37回生)
専務取締役 小松 良樹 (51回生)



学年だより

五味君が叙勲の荣誉

卒業昭二会 (28回生)

前号に大要は報告して
いた諏訪御柱祭の会合は、
夢科三幸ホテルで東京、諏
訪合同で盛大に行われ、東
京の連中も満足して翌日帰



御柱祭に楽しく集まった卒業昭二会

京した。その節の記念写真
が編集の關係で割愛されて
しまったので、遅ればせな
がら掲げてもらった。写真
の中の小沢素水君の奥さん
ならびに学習院の教授で方

が其後他界されてしまった。
当時を思つて感慨無量のも
のがある。昭二会に初めて
出席された珍しい顔も見え
るが御判りか如何。

今年まず報告しなければ
ならぬ事に吾等の優等生、
五味智英君の勲二等瑞宝章
の叙勲があった。彼は東大
の中谷千草君が地方自治功

勞者として勲四等旭日章を
受けられた。早速祝電を差
し上げて敬意を表した。
同級生としてはちよつと
珍しい永年日本大学教授に
おられた上原聰君が十二月
に商學博士の称号を授与さ
れた。後は悲しい知らせに
なるが、昭二会には常に顔
を見せていた片倉文雄君が
十一月に病逝した。埼玉県
神保原の取締役工場長とし
て(株)サンワ、ヤマト興産
株式会社社長として、ま
た本庄商工会議所の副会頭
として地方自治に多大の貢
献をされていた。小沢素水
君の内室と共に恭々しく弔
電を奉呈した。

さて東京方面の幹事各位
も近々叙勲祝賀のための計
画をしている。諏訪の方で
も山岡会長以下至極元気で
いる。永田宗敬君が健康を

害されて近頃出席しないの
が残念である。昭二会の幹
事の林憲一君が八十周年の
記念行事も一段落したので
八年間就任していた清陵高
校岡谷支部長を退任した。
その他諏訪、岡谷在住の同
級生はみな元気で活躍して
いる。

入学昭二会特報

(幹事・林憲一)

長い間、探索しておりま
した森山活石君の住所が左
記のとおり、第52回生・塩
原久さん(諏訪市片羽上ル
ーテル教会牧師)のご好意
とご努力でみつけることが
できました。関係者はぜひ
ご一報を。

株式会社 竹屋

本社 諏訪市湖岸通り 電話 2-4000
松本工場 松本市南松本 電話 25-2552

- 取締役社長 藤 森 伝 衛 (31回生)
- 取締役専務 藤 森 郁 男 (62回生)
- 取締役 藤 森 諄 二 (64回生)



五味がす

タケヤ み

懐しい同級生たち

入学昭二一会 (33回生)

小学五年生の頃、同級生の綴り方中に「不景気」の文字があるのに、先生が驚かれておるのを覚えている。

昭和二年、私は「手長の丘」より「清水ヶ丘」へめぐって来た。

その頃は、世界恐慌に日本列島がさらされ、製糸業の中心地たる此の地であるから、小学生でも口にする不景気風は、青年期への過渡期にあたる少年の心を現代の非行少年的にしたのではなからうか。卒業式近くになっての時期、種々の騒ぎがあった事は、噂のよう

省に初登庁するのを阻止し、ようと企画実行をさせたんだ」と、田舎の気のおけない友だから言ったのだろうが、戦後早々の時とはいいながら、ゴタ組、昭和二年入学の頭領の貞録十分だと

呆れた。こんな事を活字に残すも、生きていれば、相当の事をしただろう。豪秀才青木にとつては、残念だろう。だが、志半ばで逝った同期学友会長へのせめてものたむけである。

亡父を逝かしめなかったという歌があったのを引用したわけ。さらにつけ加える正健君は連続三年、名をつらねている。

東京での再会誓言

山紫会 (34回生)

あの頃は、世界恐慌に日本列島がさらされ、製糸業の中心地たる此の地であるから、小学生でも口にする不景気風は、青年期への過渡期にあたる少年の心を現代の非行少年的にしたのではなからうか。卒業式近くになっての時期、種々の騒ぎがあった事は、噂のよう

その頃は時代が暗かったうえに、結核の跳梁せし日。われらの仲間の幾人かは、「鮮紅」の血を吐いて若くして逝ってしまった。その中に、同期の青木英秋君がおる。彼は一浪して、東大農学部への農業経済を出た。

例年の通りのクラス会を五十五年十二月五日、岡谷市湖畔の諏訪湖ハイッでやったところ、遠くは神戸、名古屋、東京から馳せ参じた者が多く、久しぶりに盆を汲み交わしながら、それぞれに、またまた清水ヶ丘

時代の話に花が咲いた。年齢も忘れ天下を論じ、また現代の日本の有様をうんぬんする者、ひいては教育を論ずる者、宇宙から世界観を論ずる者、相変わらず課題のたのしい一夕を、声の

たゞ我等たゞずば世は如何に」といった概世の気概が沸々として湧いてくるらしく、夜の更けるのも忘れ、また席をあらためて、なんぼでも飲んで、言いたい放題のたのしい一夕を、声の

昭和四十九年還暦同級会それを記念して、昭和五十二年入学五十周年記念同級会誌「嗚呼博浪の槌とりて」発行などによって、当時の

と、あの、吉田茂が農林

それぞれに、またまた清水ヶ丘

た校歌にたえず歌いつづける位大きい声で、いや

い、それぞれの心の中に一



懐旧談もにぎやか山紫会

蜜声をはりあげて校歌を歌い、それぞれの心の中に一



(幹事・河西康雄)

増沢 気象庁官 就任を祝う

にぎやかに不惑会 (41回)



まとまりの良さを誇る不惑会

人生の不惑の年といわれるこのころの名称をつけて、爾来諏訪グループと東京グループがそれぞれ年間おおむね二回ずつ開き本年に至っている。その間、会報に宮坂輝人君が投稿された様に八十周年記念総会の準備・運営という大役を果たし、また、はからずも私達の主

任であられた小沢俊雄先生のご逝去に遭遇し、弔意を表しつつ、有志が、ご葬儀の手伝いを致し等々にておられます。昭和55年後期、56年前期諏訪グループクラス会について報告します。55年7月20日例年後期より若干早いですが、その直前、同級生増沢

ことで、残念ながら長官本人不在の祝賀会兼同級会を開きました。藤原先輩のご好意を謝しつつ、ホテル布半にて、午後5時より、東京より馳せ参じた小口真、新田(旧三井)楨人の両君を加えて34人。長官の一日も早い快癒を祈り、また、鬼界に名を連ねし恩師、級友の冥福を祈り、その分まで頑張りあおうと、盃を重ねるほどに意気軒昂、「東に高き」から「あゝ博浪」に移るころは深更に及び、近き再会を約して解散した。56年前期は2月22日、増沢長官全治され来諏しての信毎ゼミが開かれるとのことにて、その前日21日午後5時よりホテル布半にて改めて長官就任祝賀を兼ねて、35名出席のもと同級会を開催。「おしのび」で来られたという行政関係では我がクラストップの増沢長官誕生を心から祝い、「気象を制するものは世界を制す」という斯界にあって、長官の健闘を折り合い、例によ

って「東に高き」になるころはすっかり40数年前にかえり、それぞれに話がかすんだ。翌22日は、「信毎ゼミ」に一同打ちそろって出席。「空と大地に海」という題にて格調高い、地球の将来を含めた3時間にわたる講演を聴講した。我がクラスは先輩諸兄から言われるようにたしかにまとまりは良い方と思いますが、これは、行きがかり上自然発生的に永代で副幹事長になっていただいている藤森利男、宮坂輝人御両殿の諸条件完備の人柄のお陰である。また、矢島貞雄信毎専務のごとく物心両面の配慮してくれる人々がそろっている結果がある。併せて、配属将校小林中佐殿に「馬糞に頭をさげて」と、落雷のごとく叱られたが、ついで脱帽式挨拶をやめなかつたように(牛山デソキ先生の陰からの応援もあったが)「自らかえりみてなおくんば、千万人といえども、我ゆかん」の誠中魂

が脈々と一同の胸に脈うつ合わせ報告いたします。(小口正介)

横井病院

診療科目

- 一、外科
- 一、脳神経外科
- 一、整形外科
- 一、眼科

茅野市宮川三九八〇
電話(2)2316(代)

院長 横井次雄
医師 横井一彦 (58回生)

同 横井俊明
同 横井節子
薬局長 横井昌隆 (64回生)

酔うほどに和やかに

46回生、東京で同年会

来年度、同窓会の幹事役を務めなければならない四十六回生の東京支部同年会

は厳寒の一月三十一日午後五時から東京新宿の酒蔵信保延醇一氏を迎え、約五十名が参集して開いた。

仙台から有賀岩雄君、大阪から関八千穂君がはせ参じ、郷里・諏訪からは大和

武美、山崎忠、田中吉泰の三君が列席、信州産のうま酒に舌つづみを打った。飲むほどに酔うほどに在校時の思い出をたくさんと懐古する者、やたらに近況を聞ききたがる者など、少年時代には想像もつかなかった一面をそれぞれが披露した。久方ぶりに遇った旧友達の

ら胸を張りが肩書きのあるお歴々が、ニギビはなやかなりしころの「オレ」や「オメエ」に返ってだべり合うのは、まことにほほえましい光景だった。

前で心が緩んだこともある。社会へ出れば、しかつめらしい顔をして、ことごと

うと思えます。諏訪へ来たほとんどの方が、終戦後はそれぞれの地域へ帰っていききました。そのまま残った人もおりますが、今になりますと、どなたが疎開された方が全くわかりません。卒業以来、毎年、同年会を開いておりまして。諏訪では八月に、東京では十一月に行っておりまして。数年前には甲府で合流して行いました。

毎年、諏訪と東京で

互励会（50回生）

話が弾み、楽しい一夜に（46回生）



私たちが昭和二十五年に卒業しました。入学する時は諏訪中で卒業の時は清陵高校です。二年生の時に戦争が終わりました。一年、二年の時は勤労奉仕に狩りだされ、学業もほとんどできま

田の中に日の丸をたてて田植えや稲刈りをしたこと。当時としてはつらかったけれど、今になれば楽しく想い出されて参ります。

八十周年の寄付を致しました折、本部から何がしかの費用をいただきましたので、諏訪と東京と二つの同年会の旗を作りました。私

二年の時終戦を迎え、その後、戦後の混乱期を経て卒業しました。教育は戦時

者、全部で三百六十七名という大勢でした。おそら

この旗を、同年会を開いている会場の入口に飾り、皆で楽しく飲み語りしております。今は皆働き盛りで、集まりもそんなに多くありませんが、もう少し年をとって



ブルームで湧く白樺湖の湖畔

（幹事・有賀裕）
昨今です。

来年に30周年の集い

52回・55回生 多数参加を

52回・55回生の皆さん、
 来年は「卒業三十周年の集い」を計画しております。
 五十七年六月ごろ、諏訪の地で開催の予定です。
 去る三月七日、地元ならびに各方面からの有志三十数名が夢科グリーンヒューホテル（総支配人・田中道哲君）に集まり、旧交を温



来年30周年の52回・55回生

めながら準備会を開き、記念行事についての打ち合わせを行いました。
 二十五周年の時は、諏訪湖畔のホテルで恩師を囲み、百数十名が集い盛大に行われましたが、三十周年には、さらにより多くの方の参加が得られるように種々の計画を進めております。「夫
 〇七日会健在!!
 1発行第五号P14参照
 を五十二年七月から毎月七

日、一回も欠かさず開いてあります。時には遠来の友あり、大せいで賑やかなひとときを過ごしておりますので、積極的にご参加ください。会場は諏訪市の北山荘（社長・北沢武君）で、時間は午後七時から九時まではです。

昨年七月には、七日会メンバーと各地有志により山陰地方（鳥取、島根方面）へ三泊四日の旅行を行い、途中島根県警察本部（本部長・波多秀夫君）を訪問しました。（三井記）



3年ぶりに行われた61回生学年会

“厄払い”兼ね楽しく

次回は来夏、61回生

いまだに名前のつかないの開催になったもの。各地区ごとに、飲んだり、コルフのコンペをしたりと意気の合った仲間たちですが、全員に呼びかけてやるのは、なかなかおっくうなようです。
 次回は上諏訪地区の担当で、来年夏に開かれることになるでしょう。
 出席したのは二十二人。
 なにせ厄年とあって、しめっぽい話題もないわけでは

（薩摩正）

特集 男の清陵、女の清陵

～バンカラ諏中から共学校へ

ある同窓生が、何十年振りかにも母校を訪ねた。華やかに躍動する女生徒たちを目にしたとき、思わず「まるで女学校になったようだ」とびびりしたとか。現在、清陵生の四分の一以上が女生徒。時代のすう勢とはいえ、ポロポロ帽子、腰手拭い、高歯をカランコロンと鳴らして、清水ヶ丘を通った諏訪中時代の同窓生には、心に通ずる「バンカラ」の思い出があるようだ。質実剛健をモットーとした母校の校風。新制清陵高校となって入学するようになった女子は、ここ数年増え続けており、この校風も時代の流れの中で少なからず変化するのはやむを得ないのかも。今号では、男の言い分、女の言い分。あのころは、いまは。校風に母校に寄せる思いを特集してみました。



明治三十七年の学生たち。ハカマ姿もまじっている。



昨年の清陵祭ファイアーストーム開始前のスナップ。すっかり「近代的」になった。



で…… (昭和17年ころ)

誨中の思い出

28回生 宮坂 栄二

入学式は床に藤製の敷物
を敷いた講堂で行われた。
私は四部の級長の辞令を容
貌壮大な小松校長から羽織
袴で頂いた。嬉しいという
より緊張でガタガタ震えて
いた。教室で先生から注意
を聞いた。私の隣の席は
小原恒夫君で副級長、その
父が後に控えていた。私
は淋しかった。

二年の時、三沢理三次君
と上田の野球試合の応援に
行った。朝五時出発、下諏
訪を経て和田峠を越して丸
子で電車に乗るつもりが、
駅へ着いたら六時最終便は
出た後だった。がっくりし
て待合室のベンチに寝てい
たら、親切な米屋の店員さ
んが上田へ行くからと、リ
ヤカーへ乗せてくれた。十
時上田海野町の宿屋へ着い

た。魚屋様(頼岳寺で庶務
をやっている)をはじめ上
級生が迎えてくれて、「明日
はどうでも勝つぞ」と張り
口切ったが、翌日の試合はゴ
ロ負けで帰りは汽車で帰った。
夏休みに一人で高速を回
って松島の三沢の家へ一晚
厄介になった。彼の父は当
ななかった。次の日は又歩い
て辰野を廻り川岸の級友と
会って帰宅した。
その頃バスはなし、歩く
のが当たり前であった。
松本へも軍事教練で二晩
泊まり、往復は無論歩いた。
兵隊の味噌汁にワラが入っ
ていて飲みづらかった。
諏訪湖一周もほとんど全
員で、サボると矯風会で怒
られた。諏訪湖横断水泳も
行われた。私は半分位しか
泳げなかった。
私の家は中学の制服の仕
立てで、両親は三時頃まで
夜業をして稼いだ。一年上
の兄正一、二年下の弟満喜
三と三人の中学生を抱えて
よく切り抜けた。私等は洋
服屋の倅でありながら小倉
の服もまともなものを着ず、
廃棄寸前のつきはぎの服を
着、地下足袋をはいて通っ
た。岡谷の製糸家の息子は
サージの洋服、皮靴を通っ
て来た。私は誨中の校風は
質実剛健にありと称してあ
きらめていた。

いた時、大欠伸をして私も
お叱りを蒙ったが、上原
栄義君の叱られ方はひどく
あった。配属将校制度は何
の為か」という教官の質問
に「失業救済の為すら」と
言ったのだから無理もない。
し、左翼思想が浸透し、治
安維持法が出来る。片方で
大陸侵攻の軍靴の響きが次
第に高まって行く。そんな
時代であった。所謂十五年
戦争の序曲の時代であった。
そしてやがて我々全員が、
その戦争の渦中に運命を翻
弄される事となる。

我々の時代

31回生 宮坂 水穂

大正十四年の夏休みであ
った。我々一年生は、配属
将校小林大尉の引率で、下
諏訪赤砂に十日程のキャン
プ生活を送った。当時赤砂
の浜辺は水も砂も清く、湖
岸の風物も誠にのどかなも
のであった。
昼間は禪一丁で体操をし
たり、又、相撲や水泳に興
じた。私はよく小学校から
同級の小口敏雄君や恐ろし
く元気な宮坂政武君と水中
で相撲をとった。陸上では
政武君にはとてもかなわな
かったが、水中ではいつも
私の方が優位で、水中に沈
めてアップアップさせては
彼をひどく口惜しがらせた。
夜は天幕の中で討論会等を

開いた。或夜の討論は「軍
艦と飛行機のどっちが勝つ
か」という題であった。両
陣営に分かれて議論をした
が段々軍艦側の形勢非とな
って、空からの爆弾が命
中すりゃ軍艦は沈没しま
うじゃねえか」とどどめを
刺された形となった。軍艦
側の宮坂美衛君は、口惜し
まされに「爆弾なんか唾を
つけて消しちまえ」と啖呵
を切って一同大爆笑となっ
た。後年太平洋戦争に従軍
して、この素朴な議論が、
その後長いこと海軍部内で
激論されていたことを知っ
て驚いたものである。
我々の教官の小林大尉は
元気のいい勇ましい軍人で
あった。この年初めて中等
学校の軍事教練が実施され
て、配属将校として赴任さ
れたのである。校庭の隅の
巨石の所で何か講話をして
いた時、大欠伸をして私も
お叱りを蒙ったが、上原
栄義君の叱られ方はひどく
あった。配属将校制度は何
の為か」という教官の質問
に「失業救済の為すら」と
言ったのだから無理もない。
し、左翼思想が浸透し、治
安維持法が出来る。片方で
大陸侵攻の軍靴の響きが次
第に高まって行く。そんな
時代であった。所謂十五年
戦争の序曲の時代であった。
そしてやがて我々全員が、
その戦争の渦中に運命を翻
弄される事となる。

私自身誨中卒業後八年目
には、一兵卒として荒涼た
る中支線の腥風に身を曝
して来た時には、本稿の登
壇人物は宮坂政武(嘉将)
君と私を除いて皆鬼籍に入
っていた。
その一人小口敏雄君とは
特に親しかった。筋骨薄弱
な私が二度も応召するのを
見送って、寸足らずで甲種
くじ逃れの彼は、いつも口

惜しがっていた。念願叶って伝家の宝刀ひびきかけて満州に赴いたが、やがて敗戦。終戦前後、命により鉄橋爆破に出動してそのまま行方不明となったという。

(五六・四・三〇)

清陵と中 諷

伊藤麟太郎 38回生

私が入学したのは昭和七年ですから、もう半世紀も前の事です。今でも記憶にあるのは、入学試験の時理科の問題に何か葉の図が出て、これは何の葉であるか、

それらしき人を葬ったと伝えて来た人があったという。可憎漢万斛(あたらしいうかんはんこく)の恨みを抱いて異国の土と化す、想うて涙なきを得ない。

暗記しながらと言うのが普通で、今そんな事をしようものならたちまち車にはね

飛ばされてしまいます。生徒に一番人気のあったのが正門左の一年生校舎の前の小路にある鯛焼屋の鯛焼で私は一度も食べた事はありませんが、運動会の帰りなぞに新聞紙の袋に入ったばかりの焼芋を買って、皆で白狐の境内で食べた位のものでした。實実剛健というのが諷中のモットーでこの言葉は今でも大好きで、人間本来の在り方であると信じて居ります。

東京にポツと出た二十余年前。大学も、クラスに女性性が一人いるか、いないか

一人も居りません。「諷中」の時代にはつきはぎの制服を着ている生徒はざらで、中にはつきはぎの多いのを一種の装飾としたふしもありますが帽子などは無理に破いたり汚したりした生徒もいたものです。まあ「諷中」だけが変わったのではなく世の中全体が変わったという事でしょう。その中で眼に入ったのが昔の校庭入口の左にあったあの大石、

又その理由はと言う問題で、どうも桜の葉らしいが理由が判らないのでさんざん考えたあげく、さくら餅をくゝるんである葉と同じであるからこれは桜の葉であると書いて出したところ、入学後博物の最初の時間に、飛田広という先生ですが、入学試験にこうゆう解答をした者があつたがこれでは理科の解答にはならないと言われ、ひそかに赤面した次第です。今の激しい受験戦争から見れば誠に呑気な話ですが、大体通学風景は一里や二里は徒歩で単語帳を片手で眼前に保ち一心不乱に

戦後私の子供達も清陵に入学しました。入学式に連れられて久し振りに母校を訪れたところ、どうも「諷中」と「清陵」との間に違和感がある。あらゆる点が変わって居りました。建物

髪で真新しい一丁羅を着、カラーをつけ、つぎのあたうもあれば気の好かない、いやな表現です。

「いまの子供は栄養がよくなったから、小学校や中学校は女子の天下ですよ。男子は九年間、圧倒されっぱなしなんですよ」とは、ある中学校の先生の話。女子は七校、その総定数は千九百三十五人。男子は五校で千三百五十

共学化に思う

61回生 薩摩 正

今年の第七通学区(諷訪地方)の普通科。男女別の受験可能校と定数——女子は七校、その総定数は千九百三十五人。男子は五校で千三百五十

ふるさとの味を求めて…

丸いお屋根の



(有) 田毎庵

代表取締役 田中吉泰 (46回生)
諷訪市中洲下金子(白狐線入る)
電話(諷訪) 8-0106番

人と、女子より五百八十五人も少ない。
『女の城』であるためだ。と、共学化は清陵だけの問題でもなくなっている。

諏訪二葉、岡谷東がなお父親となってしまう

少数派への憧れ

70回生 稲月 真一

過去の或る地点を振り返るうとする意識は、同時に、しかも混じっていなかった女性の姿は、どことなく奇妙そしてずと確かに、その地点から現在に至る自己史の不確かな長さに驚いてしまふものだ。そして、そのような時間性と別な方向からやってくる様々な映像――あの時代、あの人々の姿、校庭に氾濫していた夏の白い光、授業と垂直な方向から時を刻んでいた軒先の雨滴――の鮮烈さに対して、疑いを抱いてしまうのかも知れない。何が確かなことであり、また何が虚像であったのか。

貴重な共学時代

74回生 森信みどり

夢のような思い出です。私の清陵時代、女子は学年で九名しかおらず、あらゆる面でまだまだ男子校の色彩が強かったような気がします。人数が少ないために、体育の授業もほとんど男子といっしょで、バレーボールのシーズンは腕に青アザが絶えなかったものです。しかし、そんなことを除けば、当時、清陵の女は女ではない！ などと言われながらも、同級生や先輩たちからかなり大事にされていました。先生たちも女子にはとても甘かったようです。少し過保護だったようです。今にして思えば、これは明らかに差別ですが、私にとって清陵時代は温室の中

ず者とのように、ただ単に識別出来るだけの違いに過ぎぬのかも知れない。無何れにしても、今はもう彼女たちも我々も、互いを異種の生きものと見あうようなあの地点から遙かに隔てられた場所です。たれかは或る人と家庭をつくり、他者のたれかは手を拒否しつづけ、結局のところどれも同じように単なる個体としての生を踏み続けるしかないのだらう。

校時代、決して同性だけでなく固まらずに人間と人間のつき合い方を学んでほしいと思います。そして、異性の心理のちがいを学ぶにも絶好の機会です。将来のために、是非クールな眼で分析してみてください。人間の隠れた魅力を感じとれるようになるでしょう。それは人生をより楽しいものにしてくれることでしょう。(旧姓太田)



（主回）泰
（る人懸）
番20

女子の自立を

3年4部

勝野 美穂

二年余りの清陵高校での生活。その中で、清陵高校における女子の存在とは何か、女子生徒のあり方とは、という問いかけを、しばしば耳にしてきました。このことについて、日頃感じて

論会においてのみです。統統と壇上に登り、清陵の素晴らしさを叫ぶ。それは無意味なことではありません。しかし、精神の高揚なしには、意志を明らかにすることができない、というのでは困ります。

また、女子を特別扱いしない、女子の甘えを許さない、という姿勢が基本に置かれていたのは好ましいことです。自主独立、實実剛健の精神は、男女の別なく尊重していくべきものなの

現在、清陵には、女子の増加を「良し」としない雰囲気が多分にあります。過渡期を迎えた清陵の様々な変質の原因を、女子生徒の増加に結びつける風潮があるのです。

清陵では、公式の場で女子が意見を述べることはほとんどありません。堂々と自己を主張することをせず、存在を認識してもらおうと願うのは浅薄でしょう。女子の多くが公衆の前で語るのイメージ。学生会のイメージ。第一に、談論会で女子の

受け入れ態勢に話が及ぶことです。最初に述べたような内容の意見があるにせよ、この問題について関心が高まっているのは良い傾向だと思えます。学生会、地方会をはじめ、諸団体でも真剣に取り組んでいって欲しいことを望みます。それに伴い、話し合いの味もより次元の高いものとなるでしょう。

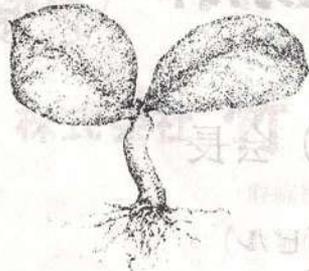
談論会等における女子排斥ともとれる意見と、それに対して湧き起る熱狂的な拍手。アンケートに「女子の増加は好ましくない」と答える生徒の多さ。また、内外を問わず、多くの人が抱いている「清陵＝男子校」のイメージ。地方会での女

このように、現状に多くの問題点があることはいなまませんが、評価すべき活躍も、明るい材料です。偏見にとらわれることなく

自分達の代表にふさわしい人を選ぶ態度が、定着していくことを願ってやみません。



新しいアイデア うつくしい表現



株式会社 中央企画

〒392 諏訪市四賀桑原821 ☎(02665)8-2382(代)

中央印刷株式会社

〒394 岡谷市川岸108 ☎(02662)2-5551(代)

●東京営業所 ☎(03)268-1570(代) ●諏訪営業所 ☎(02665)8-2382(代)
●東京工場 ☎(03)269-0221(代) ●伊那工場(カイト印刷) ☎(026579)3723(代)

学校の現況

校内も漸く新緑に包まれて、新入生も高校生活に慣れ、三年生は早くも受験準備に入るなど勉学にクラブ活動等に懸命であります。

年度末から現在までの状況について簡単にお知らせします。

四月四日(土)に入學式が挙行されましたが、昨年に引きつづき女子生徒の増加が目立ち別表のとおり生徒総数九百五十名中四分の一に相当する二百三十四名が女子となりました。

現在七学級で運営されていますが、現校舎の規模では全く余裕がなく、さらに女子生徒の増加に伴う施設で牛山正雄氏(35回生)が退職(五月十五日死去)、三村数、柳原数、天野(英)、渡辺(理)、菊池(社)、岩松(国)の諸氏を送り、新たに浅川、金子、小野、今村、鈴岡、関、宮坂、祢津、各教諭と工藤教頭を迎えました。

第五号で校舎改築問題が取り上げられましたが、将来大幅な生徒増が見込まれていますので学級増加に伴う校舎改築は勿論計画されていますが早急というわけには参りません。当面授業

に差し支えないよう施設補修に万全を期して職員一致団結して頑張っております。

職員につきましては、校長以下五十八名(うち教諭四十六名)となり、いままでない大世帯となっておりますが、この三月末で武井武人氏(教頭・39回生)が退職、さらに四月一日付で牛山正雄氏(35回生)が退職(五月十五日死去)、三村数、柳原数、天野(英)、渡辺(理)、菊池(社)、岩松(国)の諸氏を送り、新たに浅川、金子、小野、今村、鈴岡、関、宮坂、祢津、各教諭と工藤教頭を迎えました。

退職(五月十五日死去)、三村数、柳原数、天野(英)、渡辺(理)、菊池(社)、岩松(国)の諸氏を送り、新たに浅川、金子、小野、今村、鈴岡、関、宮坂、祢津、各教諭と工藤教頭を迎えました。

退職(五月十五日死去)、三村数、柳原数、天野(英)、渡辺(理)、菊池(社)、岩松(国)の諸氏を送り、新たに浅川、金子、小野、今村、鈴岡、関、宮坂、祢津、各教諭と工藤教頭を迎えました。

退職(五月十五日死去)、三村数、柳原数、天野(英)、渡辺(理)、菊池(社)、岩松(国)の諸氏を送り、新たに浅川、金子、小野、今村、鈴岡、関、宮坂、祢津、各教諭と工藤教頭を迎えました。

在籍生徒数

男女別 学年	男	女	計
	I	230	
II	229	86	315
III	257	63	320
計	716	234	950

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

◆今春の進路状況

共通一次試験も三回目となり大分慣れたように思われますが、本年度の進学については前年を上回る好成績でした。進学希望者数三百六名、進学者数百八十名で五八・八％(前年五六・四％)であり、その内訳は、

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

◆本年度の行事

例年どおりつぎのように盛沢山に計画されています。

例年どおりつぎのように盛沢山に計画されています。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。

園公立大八十七、私立大百一日、盆地一周駅伝(四月二十一日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)、歓迎乗艇(四月二十八日)。



河西勇事務所

司法書士
土地家屋調査士
社会保険労務士

諏訪漕陵会(ボート部OB)会長

諏訪市湖岸通り4-8-7(河西ビル)

TEL (02665) 8-5315

内科・精神科

医療法人社団いちい会

吉沢病院

理事長
院長 吉沢利雄
(第39回)

東京都町田市小野路町1632番地

TEL 0427-35-2621 (代)



豊かな明日を築くシェル

シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号

代表取締役 細川昭八 (第51回生)

専務取締役 矢島千晴 (第41回生)

くらしと産業に奉仕する三協グループ

株式会社三協精機製作所
伊那三協株式会社
飯田三協株式会社

代表取締役社長 久保田 実
専務取締役 山田 六一 (35回)
常務取締役 今井 芳樹 (42回)



三協精機

本社・工場 長野県諏訪郡下諏訪町5329 〒393 TEL 02662(7)3111
東京支店 東京都港区新橋1-17-2 〒105 TEL 03(502)3711
大阪・名古屋・静岡・福岡・ニューヨーク・ロスアンゼルス・デュッセルドルフ・香港・マレーシア

羽田内科医院

院長 羽田 忠彦 (第50回)

副院長 羽田 俊彦 (第84回)

諏訪市湖岸通り 2-4-16 TEL (2)-6403

清陵富士見会

会長 小林茂三郎 (三八回・東京・練馬区)
監事 三井 為友 (三〇回・東京・世田ヶ谷区)

三井 全 (四二回・東京・葛飾区)

幹事 細川 幸二 (五二回・神奈川・藤沢市)

小林 正春 (五七回・東京・板橋区)

小林 晋作 (五七回・東京・世田ヶ谷区)

小林 俊光 (五七回・千葉・柏市)

小林 寛人 (六〇回・長野・富士見町)

会計 小林 克之 (六六回・神奈川・茅ヶ崎市)

委員 小林 稔 (四八回・東京・八王子市)

松村三喜男 (四八回・埼玉・草加市)

名取 小一 (四九回・東京・練馬区)

内藤 廣海 (五一回・千葉・船橋市)

樋口 敏夫 (五八回・東京・国分寺市)

小林 光 (六〇回・東京・府中市)

名取 正富 (六〇回・長野・諏訪市)

小林麻須男 (六三回・神奈川・藤沢市)

清陵富士見会事務局

〒一五二 東京都渋谷区西原二一三三一六

（株）ロア内 代表 細川幸二

電話（〇三）四六五―四八一四

信州が生んだ天下の銘酒

真澄

神州一味噌

しんじゆいち

醸造元 宮坂醸造株式会社

本社 東京都中野区野方 2-4-5 〒165
TEL. 03(385)2121

真澄工場 諏訪市元町 1-16
TEL. 02665(2)6161

丸高神州一工場 諏訪市高島一丁目 8-30
TEL. 02665(2)4080

- 会長 宮坂 勝 第18回
- 社長 宮坂 順三 第29回
- 副社長 宮坂 水穂 第31回
- 副社長 宮坂 伊兵衛(作平) 第40回
- 常務 宮坂 和宏(和夫) 第47回
- 常務 宮坂 正昭 第47回

人名録後日談

東京支部 小口 楨三

早春のある日、諏訪中の後輩という人が訪ねて来た。聞けば某大会社の課長さんで、「長く海外に駐在していて最近帰国、営業を担当することに。清陵の同窓生には東京で活躍している人が多いので訪ねてみたい。新しい名簿が発刊されたと聞いたが何とか手に入らないだろうか」との用件であった。幸い在庫があったので早速届けしたが、最近忘れられた頃になって「たくさん」と大いに感謝された。この他にも同じような札ができて、極めて有効であった。実は二晩程深夜迄人名録を読んだが、ペン欄で本人の状況がわかり、会社の在籍はたちまち売り切れ、諏訪で売ってもらおうべく委託しておいたものを引きあげざるを得なくなった。

ことだ。手ももは、尾沢賢一君(37年生)のアイデアで、多くの方々の投稿と広告その他の応援、そして極く僅かな専門家の人達の献身的な努力によって出来上がった人名録であるが、一時は反対の声もあってやめるべきかと考えたことさえあったが、発刊後一年近く経った今、刊行してよかったと心から思っている。そして、この仕事を温かく見守って応援して下さい方々に衷心お礼を申し上げたい。ある時期、諏訪中学に、或いは諏訪清陵高校に在学し、或いは卒業したというだけのことで、みんなが同窓生と呼ばれる訳であるから、中には同窓会に全く無関心の人々、又通知があれども出席、決められた会費は払うといった人達、極めて積極的に会のために尽くしてくれる人達等々さまざまであるが、これは当たり前

しかし何かのきっかけで同窓会にかかわりを持った人の多くは、同窓会に熱心になる。今度の人名録の発刊をきっかけに何人かの人が同窓会に関心をもつようになったことは確かである。同窓会で思いがけない旧友に逢えたという程度のことを含めて、何かのきっかけがあれば同窓会への関心が深まり、総会などへの出席者もふえてくる。それでいいのだと思う。強制したり強要する類のものではないだろう。自然に同窓会の意義、同窓会のよさのようなものが判ってくるのが長続きすることにもなると思う。

諏訪清陵人名録

—東京支部会員を中心として—

【昭和55年版】



企画・編集・発行
諏訪清陵高等学校同窓会東京支部

でき上がった「人名録」



物の漬

野沢菜・山午莨
各種漬物・製造販売

丸モ高木醸造店 有限会社

代表取締役 高木常雄(33回)

岡谷市今井区1870 TEL ②-2619(代)
 配給センター
 岡谷市小井川7658 TEL ③-0200(代)

ビバノ！湖周マラソン

諏訪清陵高校第六十七回
の諏訪湖一周マラソンが十
月二十五日(土)、秋雨をほ
降る中を、生徒約七百五十
名、OB二十四名が参加し
て行われた。OBが参加し
はじめたのは今から七年前。
時の校長小菅重男先生、体
研の矢島子郎先生等の勧め
で、四十二回生の井上彦次
の仕事を矢島先生の要請で



三十三
に数回は参加しているとの
こと。六十四才のまさに青
年で、驚くほかはありません

さん、小松昌明さんの二人
が小菅校長、矢島先生等と
共に走り始めたのに端を発
する。

お引き受けする仕儀となり
ました。その間OB番号の
ゼッケンも作り、今年はお
Bが参加し始めて第七回。
参加者も二十四名となり、
東京、神戸、千葉と各地か
ら駆けつけてくれました。

中でも異色なのは三十四
回生向山博人さんで、向山
さんは九年前から感ずると
ころあり、マラソンを始め
たという。当時体重も八十
キロ程あり、高血圧や糖尿
病等に悩まされ、医者通い
でも、最初は百メートル位走
っても息が切れたという。
それが今は、毎日、神戸の
六甲山の山麓、起伏のある
道を最低十キロメートルは
かかさず走っている。しか
も四十二・一九五キロメー
トルのフルマラソンにも年
に数回は参加しているとの
こと。六十四才のまさに青
年で、驚くほかはありません

も業務繁忙で日頃十分の練
習が出来ないので、往年の
記録に挑むべきもないが、
故郷の秋の風景を眺めなが
ら走るのがこよなき楽しみ
といて、北海道出張中に
このマラソンに参加するた
め、飛行機で飛び帰って来
るといふ熱心さで、嬉しい
ことでありました。

OBが湖周マラソン参加
については、矢島校長先生
はじめ教職員先生方、また
校友会の多大のご理解、ご
協力によるものであること
を特に忘れてはならない。
先生方もこそって辻々に立
って激励し、安全指導をい
ただくわけである。中でも
有賀の山道の急坂に毎年仁
王立ちとなって、生徒やOB
連に叱咤激励する牛山正
雄先生は生徒間でも評判で、
この坂の事を通称「牛正坂」
と呼ぶ。最も苦しい坂であ
るだけに、「牛正坂」の名は
懐しく長く伝わることであ
らう。

座談会をした時の共通結
論は、OBマラソンはあくま
でも楽しむものでタイムに
とらわれてはいけない。要
するにマイペースで走るこ
と、即ち無理をしないこと。
途中で時には止める勇気が
必要。アスファルトの上を
走ることが多いのでふだん
履く運動靴も関節や腰を痛
めぬため、なるべくクッシ
ョンの効いた底の厚いジョ
ング用靴を使用すること。
十分準備体操をすること。
気温が低い時は足腰をな
るべく冷やさないよう配慮す
ること。疲れたり痛かった
りしたら、翌日は休み調子
が良くなったら走ること。
年に少なくとも二回くらい
は医師の健康診断を受ける
こと。要は「休養と栄養と
鍛練」のバランスを考えて
やれば三十代、四十代以上
のランナーにとってマラソ
ンは最高の健康法といつて
良いだろう。

その二人も一日十本く
らいをふかす程度、アルコ
ールは皆たしなむが、飲め
ば眠くなり、ビールなら一
二本、酒も二、三合程度。
余計は飲みたくなく、二日
酔いする人は一人もないと
いうことで、一同健康で楽
しい人生を送っているとい
うことであった。

当日の参加者について個
個にご紹介したい。ユニー
クな話もありましたが、紙
面の都合もありますので何
れ次回に譲るとして、最後
に当日の参加者の芳名を付
記して、この稿を終わるこ
とにします。

向山博人、井上彦次、山崎
壮一、藤森昇、白川太一、
清水純、小林俊光、五味乙
彦、降旗弘一、吉田秀穂、牛山
孝、松木義文、小川文啓、
武井省吾、横山嘉一、米山
迪男、原英充、三浦久、松
木博嘉、宮沢清夫、矢島先
生、清水先生、小池先生、
野口先生、以上。

最後に湖周マラソンを終
了して、学校で参加者一同が
吸う人が二人しかいなかった
松崎元博(50回生)

「あな嬉し」「金色の民」考

50回生 宮坂 亮一

る。

あな嬉し喜ばし
たたかい勝ちぬ
百々千々の仇はみな
あとなくなりぬ
あな嬉し喜ばし
この勝ちいくさ
いざ祝えいざ歌え
この勝ちいくさ

歌詞は四番まであり、日清戦争から日露戦争にかけてよく歌われ、学校でも教えたものであった。作詞は「勇敢なる水兵」「水師營の会見」などの佐々木信綱であり、作曲は納所弁次郎という学習院の教官で「桃太郎」（モモカウラウメタ）や「兎と亀」（モシモンカ

清戦争から日露戦争にかけてよく歌われ、学校でも教えたものであった。作詞は

「勇敢なる水兵」「水師營の会見」などの佐々木信綱

あり、作曲は納所弁次郎という学習院の教官で「桃太郎」（モモカウラウメタ）

や「兎と亀」（モシモンカ

達ば奇妙な行動と受け取ったであろう。勝負に負けても「あな嬉し」であり、「たたかい勝ちぬ」であったからである。我々のころは歌詞をひっくり返して、「いざ歌え、いざ祝え」をやっていたから、歌詞を知っていた人々にはなおさらであったろう。

現在の清陵生は、彼らに「タミ」と称されている「金色の民」の一本槍である。金色の民いざやいざ

大和民族いざやいざ

戦わんかな時至る

戦わんかな時至る

軍国調のこの歌詞が、現在の高校生にそのまま歌わ

れているのは、新諏訪の七不思議とでも言えるかもしれない。

明治三十七年二月十日開戦の日露戦争と時を同じくし、その二月の一高の記念祭で初めて歌われた「征露の歌」（ウラルの彼方、風荒れて）は、歌詞が二十番まである長い歌である。これより少し前の明治三十四年の一高寮歌「アムール河の流血や」と、後に明治四

戦の日露戦争と時を同じくし、その二月の一高の記念祭で初めて歌われた「征露の歌」（ウラルの彼方、風荒れて）は、歌詞が二十番まである長い歌である。こ

れより少し前の明治三十四年の一高寮歌「アムール河の流血や」と、後に明治四

したものである。

「金色の民」も同様である。一高生・陸士生徒・社

会主義者・諏中生（多分）の右から左の作詞者が、軍

楽隊の作曲を利用したのであるから面白い。

日本人はメロディーよりも、歌詞にひかれて歌を歌う傾向があることを指摘する心理学者もいるが、現在の清陵生は何にひかれて「タミ」をやっているのであらう。（50回生・音楽学会員・東洋音楽学会員）

「金色の民」も同様である。一高生・陸士生徒・社

会主義者・諏中生（多分）の右から左の作詞者が、軍

楽隊の作曲を利用したのであるから面白い。

日本人はメロディーよりも、歌詞にひかれて歌を歌う傾向があることを指摘する心理学者もいるが、現在の清陵生は何にひかれて「タミ」をやっているのであらう。（50回生・音楽学会員・東洋音楽学会員）



道志社社友会例会

諏訪市の地蔵寺下にあった旧諏訪中学の道志社寄宿舎の社友会例会が九月一日、地蔵寺において開会された。道志社諏訪寄宿舎は、昭和初年、創設の時の功労者小平権一氏が、農林省の計画に属する農林青年練成場の寄宿舎とするため、取り壊し、八ヶ岳山麓の現地に移し、その姿を消し、東京の寄宿舎も戦災で消滅し、社友も次第に減った。この日集まりたるものは、大正五年入学の秋山憲夫（藤沢市辻堂、竹ノ内省三（諏訪市岡村）を加えて、麦酒をくみかわり、高橋正男（原村、大正十三年入学）を加えて、薄暮、散会した。篠原大蔵（下諏訪町高木、三年入学）大正五年入学、両角俊二（下諏訪町立町、大正十五年入学）以上、古村敏章（諏訪市大和、大正十五年入学）以上、写真上段、写真下段。*

営業品目 時計・宝石・メガネ・レコード店

諏訪市諏訪 1-3-11 TEL 2-5200(代)

- | | | |
|-----|-----------|--------|
| 株 社 | 山 崎 壮 一 | (51回生) |
| 会 社 | 山 崎 篤 博 | (67回生) |
| | 山 崎 充 成 | (63回生) |
| | 山 崎 英 秀 | (65回生) |
| | 山 崎 秀 昭 | (66回生) |
| | 山 崎 波 沢 幡 | (74回生) |
| | 山 崎 柳 八 | (77回生) |

*

校舎周辺

～話題から～



故新田次郎さんの墓参りをする諏訪こぶし会会員たち

大作家をしのぶ

新田次郎さんの追悼会
○：昨年二月に死去したベストセラー作家・新田次郎さん（31回生）の追悼会が四月十九日、墓のある正願寺（諏訪市岡村）で開かれました。諏中で同級の藤森伝衛、阿木翁助、宮坂水穂、林百郎各氏らが発起人となって実現したものです。同窓生をはじめとする各界の著名人六十六人が集まり、故人を讃え、思い出を語り合いました。

また、この会は今後も継続的な組織として残り、毎年四月に追悼会を開くことになりました。

○：昨年二月に死去したベストセラー作家・新田次郎さん（31回生）の追悼会が四月十九日、諏訪市内のホテルでにぎやかに開かれました。

吉沢さんは辰野町出身で現在東京・成城在任。昭和二十二年に譲り受けた学生団創立当時の団誌「書簡」記録などを保存していましたが、「このまま記録を消滅させることは忍びない」と思い立ち、出版を決意。多大な苦勞の末、B5変形判・六百四十二頁の立派な

母校に二人の女性教諭
○：母校に今春、若い女性教師二人が着任しました。過去には、昭和二十七年から三十年ころまで女の先生が一人いた記録があるだけなので、ちょっとした「異変」といったところです。

精魂傾け出版

「流る、河は一百里」
○：東京・吉沢登さん（42回生）が、伊那会および伊那学生団の歴史資料を独力でまとめ、「流る、河は一百里」として自費出版されました。また、同窓生有志の呼びかけによる出版記念会が四月十九日、諏訪市内のホテルでにぎやかに開かれました。



母校に「流る、河は一百里」を贈る吉沢さん（左）

結 婚 式
大・小宴会・集会
出張パーティ

東洋軒

フランス料理
日本料理

◇神宮外苑	日本青年館内	東京都新宿区霞ヶ岳町15	03-401-7530
◇馬場先門	東京商工会議所内	〃 千代田区丸ノ内3-2-2	03-213-1725
◇飯田橋駅前	飯田橋会館内	〃 千代田区富士見2-10-36	03-264-7588
◇新宿駅南口	池田ビル地下	〃 渋谷区代々木2-7	03-379-1461

※日本青年館は国際会議場を含めた近代的設備をととのえました。
郷党の皆様のご利用を、お待ち申し上げます。

訃報

55年6月から
56年5月まで

ヤマト興産(株)社長、大和製作所監査役として活躍。神保原村議、本庄商工会議所副会頭などを歴任した。

味沢作太郎さん 七月二日、肺炎のため死去。七十歳。岡谷市湊小坂出身。松本市マルエス電気商会社長。同窓会松本支部の幹事を永く務められた。

飯田新治さん 八月九日、六十六歳で死去。諏訪市出身。東京薬科大、昭和医大卒業後、家業のイゲタ飯田井筒堂を継ぎ、県薬剤師会諏訪支部長、清陵高PTA会長など歴任。市教育委員同委員長も務めた。

三村二さん 九月二十九日、肺炎のため死去。七十歳。富士見町出身。東京医科歯科大卒、同大歯学部部長、付属図書館長、新潟大歯学部教授などを歴任。専攻は歯科薬理学。

小泉愛二さん 十月九日、八十三歳で死去。諏訪市出場に務め、のち(株)サンワ、

小泉小一さん 十一月十一日、七十六歳で死去。諏訪市出身。長野師範卒後、富士見、湖南など諏訪地方の小、中学校で教鞭をとった。野球好きで、湊中学校在職時には、諏訪郡中学校野球大会で優勝監督となったこともある。退職後は自宅で農業を営んでいた。

原(小林)岩男さん 十一月十二日、五十六歳で死去。茅野市出身。諏訪大社上社の山造りの家系を継ぎ、諏訪自動車株式会社企画課長の現職にあつた。

片倉文雄さん 十一月十二日、七十二歳で死去。岡谷市出身。ヤマト神保原工

小口利市さん 十一月二十日、七十一歳で死去。下諏訪町出身。四十年間にわたって教職の道を歩み、諏訪地方の小学校長、県教委指導主事、義務教育課長などを歴任。四十七年四月から下諏訪町博物館長として地域の社会教育、文化の発展に尽力した。

五味幸雄さん 十一月二十二日、急性心不全のため三十四歳で死去。富士見町出身。ブルーチップスタンプ松本・上田営業所長、上田市スパー・やおふく企画課長などを歴任した。

松井源衛さん 十二月十七日、八十五歳で死去。辰野町出身。長野師範二部卒後、七久保小訓導を振り出しに高島小、中箕輪小などで教諭を務め、高遠小、中

林憲吉さん 十二月十九日、八十三歳で死去。下諏訪町出身。下諏訪尋常高等小教員を務めたあと、岡谷市の山十組製所に勤務。福島県に藤田製作所(製糸業)を設立、帰郷後は農業を営んでいた。

矢沢将英さん 十二月二十日、七十五歳で胃ガンのため死去。高遠町出身。東大卒後、新日本ソフ会長を務め、高分子加工研究所社長にあつた。工学博士。勲三等瑞宝章を受けている。

下山豊さん 一月八日、八十歳で死去。下諏訪町出身。戦前は下山製糸場、戦後は製材業の伊那工業を経営。二葉塗工相談役だった。彰など受けた。

箕輪小学校長などを歴任した。アララギ派の同人で、俳号は「ヒムロ」の選者として活躍。また「流域」を主宰。「岡草」「青野風」「随縁集」などの作品集がある。

飯山和さん 一月十六日、急性心不全のため死去。茅野市出身。七十歳。長野師範卒業後、三十余年にわたって教壇に立ち、豊田小学校長など務めた。

西尾信さん 一月二十三日、四十六歳で死去。諏訪市出身。ニシオ自動車代表取締役。諏訪青年会議所理事長、諏訪湖ライオンズクラブ幹事、清陵高PTA理事など歴任した。

原田利成さん 二月九日、心筋梗塞のため、五十歳で死去。諏訪市出身、中大商学部卒。スワプラザ内の有限会社三味商事代表取締役を務めていた。

茅野喜七さん 二月十日、七十八歳。諏訪市出身。家業の製糸業を継ぎ、死去。七十八歳。諏訪市出身。角商事会長の現職にあつた。諏訪市議、保護司など多くの公職を務め、法務大臣表彰など受けた。

山岡利平さん (28回)

宮坂久臣さん (49回)

地元の繁栄をはかる……信用金庫

諏訪信用金庫

理事長 山岡利平 (28回)
専務理事 宮坂久臣 (49回)
本店 長野県岡谷市幸町7番41号
TEL 岡谷 (02662) 3-4567

信対業誠

浜(中沢)寛示さん 三月九日死去。七十一歳。茅野市出身。諏訪市豊田出身。岡谷市花岡の浜家へ入婿、丸浜製糸合資会社の役員を務め、丸正製糸合資会社を創立、戦後は農業を営むかたわら花岡区長、市遺族会連合会幹事などを歴任した。

牛山富さん 三月九日死去。七十一歳。茅野市出身。諏訪赤十字病院に勤務した後、茅野市で開業。諏訪郡医師会会長、茅野ライオンズクラブ会長などを務めた。

堀田三郎さん 四月二日死去。六十一歳。諏訪市出身。県河川課、治水組合に勤務した後、父の経営する動務した後、父親の経営する堀田組を継ぎ、土木業を営んだ。

太田沢人さん 四月四日死去。七十七歳。岡谷市出身。諏訪、松筑地方の各小学校で教職につき、富士見小を最後に退職した。教員時代から郷土史談会の中心人物として若者達に取入れられた。中身より外見、形象が重んじられた。清陵の場合もそんな弊がいまなお尾を引いているように思えて仕方がない▼学窓を去り、何十年も経てから同窓生として学校の現状に目をやると、なにやら食ひ足らなさにさいなまれる。親が子供に対して抱く焦燥と同じく、女の生徒が四分の一を占めると聞けば、もうそれだけで校風や伝統が崩壊するような妄想に駆られる。校風や伝統が時の流れの中に自然発せし、堆積するものであることを忘れては生きている。

清水多喜示さん 五月五日死去した。八十三歳。原村出身。諏訪地方で教員生活の後、画家から彫刻に進み、渡仏してブールデルに師事、サロン・アンデパンダンなどで活躍。帰国後は院展、国展に新鮮な作風の作品を相次いで発表した。四十五年紺綬褒章を受章、

牛山正雄さん 五月十五日死去。六十四歳。諏訪市出身。東京文理大卒業後、中央気象台(現気象庁)勤務などを経て、昭和二十三年からことし四月までの三十三年間、清陵高教諭(地学、生物)を務めた。母校端艇部顧問のほか、県酒艇協合理事長を歴任。

森山豊さん 四月六日死去。七十歳。諏訪市出身。東洋大卒業教員となり、岡谷東高、豊科高などの教頭、飯田工業高、塚原高校長などを務めた。県バスケットボール協会参与の現職にあった。

編集後記
☆会報第七号をお届けします。今回は男の清陵、女の清陵を取り上げてみました。わしい企画になり得たでしょうか。

☆男女共学など思いもよらなかった戦前、何かまぶしいものでも見るように受け入れた過渡期の世代、そして女子が四分の一以上も占めるようになった現在、それぞれの時代によって受けとめ方は違いかと思いますが、母校に思いを寄せるよすがにしていただけならと思えます。

☆会報をより身近なものにするため、支部だより、学年だよりにスペースをとるようしておりますが、原稿を依頼しても思うように集まらず、学年だよりは常連化の傾向にあります。みんなの会報であることを再認識され、これまで以上にご協力をお願いします。

荒八ぎ朱

人間は自らが見果てなかつた夢を、他に求める因果な動物のようである。

「おい、××ちよつとこつちへおいで。いったい、この点数はなんだ。恥ずかしいとは思わんか。だいたいお前は努力が足りねえ。しつかりやらなきゃあ、後になって後悔するぞ」などと子供にやる

親のほとんどが、自らの過ぎし日の生きざまに、深い悔恨を抱いている▼時の流れに洗われた事物は、浜辺の石のように丸味を帯びて昔日の形がいを留めない。そのためか、初めから海石であったような錯覚にとらわれている。「お父さんはな、お前よりもうちよつとだ。恥ずかしいとは思わんか。だいたいお前は努力が足りねえ。しつかりやらなきゃあ、後になって後悔するぞ」などと子供にやる

親のほのぼのとした親の間の錯覚を生んだ▼親子の間柄であれば、ご愛きようと笑つて過ごせるが、先輩、後輩の「きずな」だけで結ばれる学友会や同窓会などの場合、それが過ぎればいや味になる。「質実剛健」「自治」「勤勉努力」などを校風や伝統としてうたっている学校は珍しくない。珍しくないどころか戦前の男子校の場合、ネコもシヤクシもが掲げた「お題目」のようなものであった。お題目であるだけに神がかりになることが多かった▼弊衣破帽、や、歩行中における読書など、必要から生じたというより、「伝統校のポーズ」として若者達に取り入れられた。中身より外見、形象が重んじられた。清陵の場合もそんな弊がいまなお尾を引いているように思えて仕方がない▼学窓を去り、何十年も経てから同窓生として学校の現状に目をやると、なにやら食ひ足らなさにさいなまれる。親が子供に対して抱く焦燥と同じく、女の生徒が四分の一を占めると聞けば、もうそれだけで校風や伝統が崩壊するような妄想に駆られる。校風や伝統が時の流れの中に自然発せし、堆積するものであることを忘れては生きている。

編集委員会
よりお知らせ
計報は毎号、会報委員会にておりますが、特に遠隔地に在任されている会員のものには掲載漏れになることがあります。ご容赦ください。なお、掲載漏れを最小限にするため、各支部ごとに毎年計報を送ってくださるようお願いいたします。